令和５年度　第２回宇治市小中一貫教育推進協議会会議録

会議名	令和５年度　第２回宇治市小中一貫教育推進協議会
日時	令和６年３月４日（月）　18時00分～20時00分
場所	宇治市役所　８階　大会議室
出席者	（委　員）　榊原会長　内田委員　西川委員　青木委員　上林委員 安田委員　中井委員　西尾委員 ＊蔀副会長は欠席 （報告者）　北宇治中学校ブロックラーニングコーディネーター　酒井教諭 東宇治中学校ブロックラーニングコーディネーター　玉井教諭 黄檗中学校ブロックラーニングコーディネーター　小西教諭 （事務局）　木上教育長　福井部長　上道教育副部長　林口教育支援センター長 吉田学校管理課長　堀江教育支援課長　吉川学校改革推進課長 大槻改革推進課担当課長　岡野学校教育課長 土井学校教育課副課長　天花寺学校教育課総括指導主事 田中学校教育課学校教育指導主事
配付資料	資料１　令和５年度第２回宇治市小中一貫教育推進協議会資料

１　開会

・木上教育長　開会挨拶

２　報告及び協議事項

（１）報告１　令和５年度宇治市小中一貫教育の取組状況及び学校視察報告について

資料１の１～１７頁に沿って事務局より説明・ラーニングコーディネーターから報告

報告１についての質問・意見等と応答

（会長）

それでは、限られた時間ですので、積極的にご発言をいただいて、また、小中一貫教育の進捗管理ということを使命としておりますので、気づかれたこと、お考えをできるだけ、忌憚なくおっしゃっていただいて、来年度に向けて進めてまいりたいと思います。どうぞお願いいたします。

本日の報告１は、「令和５年度宇治市小中一貫教育の取組について」です。

最初に、事務局より報告をお願いします。

（事務局）

それでは、事務局より「令和５年度宇治市小中一貫教育の取組状況について」の全体報告をさせていただきます。

【事務局より全体報告】

（会長）

はい、ありがとうございます。表に従って全体のことを報告いただきました。

資料にありますように10ブロックのうち４ブロックからのご報告を順番にお願いできればと思います。まず、西小倉中学校ブロックお願いします。

（報告者）

【西小倉中学校ブロックの取組状況報告】

（会長）
　はい。ありがとうございます。西小倉小の視察には副会長が行ってくださったと思うのですが、今日は欠席ということで、事務局の方で聞いている感想、或いは事務局からこんな感じだったというフィードバックはありますか。

（事務局）
　視察後の協議の中で、副会長からは、小中の先生が授業後の事後研修会で非常に雰囲気よくお話をされているという様子を見て、小中一貫校開校に向けて、まずは先生方が繋がるということをメインで取り組まれてるということがうまくいってるのではないかということが出ておりました。

（会長）
　はい、ありがとうございます。
　何か、特にこのブロックについて、聞きたいこと、気づいたことがありましたら、それもどうぞ。

（委員）
　それではお聞きしたいのですが、出前授業はどういう感じで実施されたのですか。

（委員）
　出前授業は３回実施しました。１つの授業をクラスごとに行ったので、同じテーマの授業を４回行いました。グループワークなども入れ
ながら。例えば学習については「なぜ学ぶのか」や「どうしてルールを守らなければならないか」というテーマで、それをグループで考える時間を取り、まとめて発表もできました。

（会長）
　はい。ありがとうございます。それでは、続いてきた北宇治中ブロックお願いします。

（報告者）
【北宇治中学校ブロックの取組状況報告】

（会長）
　はい、ありがとうございます。
　何か、特にこのブロックについて、聞きたいこと、気づいたことがありましたら、どうぞ。
　では、私の方から。５ページの計画したができなかったこととして、小中一貫教育ニュースの発行が上がっていますが、それは、昨年度はなさっていたんでしょうか。

（報告者）
　作成したと聞いてます。一貫教育ニュースという形ではなくて、各校の学校だよりを掲示するなどで、学校間の交流はできましたが、一貫教育ニュースにまとめることができなかったのが反省です。

（会長）
　各校の学校だよりを提示するというので十分じゃないかというご判断もあると思うので、そういう意味で、重要性が高くないということでやらないという判断もありだと思うし、いや、それだけでは不十分だと考えて、発行するべきだったが発行しなかったでは、やっぱり総括が違ってくると思うのですが、どうですか。

（報告者）
　そうですね。各学校の取組は共有できたので、それは一定効果はありましたし、交流もできたかなと思います。しかし前年、一貫教育ニュースを発行できていて、今回発行できなかったというのが反省点です。今おっしゃっていただいた効果という点で協議して、来年度は、各校の学校だよりの交流でいくのか、まとめたニュースを定期的に発行していくのか、検討していきます。

（会長）
はい、そうですね。ブラッシュアップっていうこと書かれていますし、手間暇と効果のバランスは大事なので、しなくてもよいことだという判断であれば、別にやるべきだったのにやれなかったって紹介する必要はなくて、「現状を鑑みれば、なくてもいい。」ということでもいいと思うので、またご判断いただければありがたいです。
もう１点、他のブロックとも関わるので別に北宇治だけじゃないですが、この小中一貫教育ということで、ずっとやらせていただいていますが、この連続性という言葉の意味合いというか、義務教育学校が増えてきつつある中、小学校、中学校があるのは、やっぱりその子どもさんの課題とか、発達の状況に応じて、６・３で区切るのか、４・５で区切るのかがいいのかわかりませんが、何らかの違いがあるということで設計されてると考えるなら、「連続性」というのは、一人ひとりの子どもにとっては、６年生、７年生、８年生と連続しているのですけれど、違いはあっても良いという考え方もあります。入学して、６歳７歳から 15 歳ぐらいまで９年間あるじゃないですか。一貫しているということと、連続は、言葉遊びダメですが、その辺りは、どうどう考えたらいいのか。簡単に言うと、小学校は小学校、中学校は中学校とあっても、別に一貫してるという理屈もありだと思うので、このあたりで連続性、他でもよく聞く言葉ですが、ブロックとして、個人でもいいですが、どんなふうにお考えですか。やはり、教職員が、共通理解をした上で、子どもたちの成長を見守れるとか、支援できるっていうのが「連続性」なのかなというふうに思ってます。
それは学校の取組も、連続的にやらなければという考えと一貫してるというのは、少し意味合いが変わってくると思うんですが。その部分では、今回こういう定期的な交流ということが、より重要と考えるのですが、どうですか。

（委員）
うちは学校地域保護者との繋がりを、行事を通して持っています。
今年度は、福祉まつりの仮設係とか、この前は体育振興会さんが社会人講師として授業に行って、親子ブラインドボードを開催したのですが、子どもたちももう喜んでね、目をキラキラするんですよね。やっぱりコロナ禍でできなかったことが、今年度はできてよかったかなと思っています。やっぱり、人と人との繋がり、地域との繋がりっていうのを大事にしていきたいなと思っています。
あと１つ、私は青少年健全育成協議会から来ていますが、西小倉地域が小中一貫校になったら、２年後にはどういうふうな形で動いていったらいいのかと不安に思っています。役員会でも、小中一貫校になったらどうするのかとの意見も出てきて、色々聞かれます。
ですので、教育委員会の方とも相談して、南小倉小学校、西小倉小学校、北小倉小学校、西小倉中学校の皆さんと集まって相談をしていかないといけないと思っています。
体育振興会や他の地域の協議会も一緒なんですけれど、考えることがいっぱいです。

（会長）
ありがとうございます。今おっしゃった繋がりっていうのは、とても大事な言葉だと思います。
どこに住んでいるかだけで、無関係かもしれないけど、それを色々な行事などの計画を通じて、繋がっていくということが大事ということ、それも連続というか、未連続でも繋がって、きちんと規則化や順番があって進んでいくとかでなくても、もう少し緩やかな曖昧な感じもあると思います。
しかし、その辺りは難しいところで、やっぱり制度というものもあるので、それを無視、軽視できないんですが、同時に、子どもの発達なんかは、まさにそうだと思うのですが、行きつ戻りつ、何というか一貫というのは、こう幅を持った概念としてとらえ、あまり計画的にとかではなくとも、積み上げたイメージでもいいと思うんです。
難しく考えなくても、９年間全体で先生方の子どもさんに対する「まなざし」が連続しているということはすごく大事なことだと思うんです。必ずしも、ブロックごとみたいに、６年生が中１に、順番的にはそうなんですが、発達課題もあるし、他の課題もあるので、その辺のとらえ方っていうのがちょっと議論できればいいなと思います。
伺います。委員は、保育所時代から会長をされていますが、挨拶運動を考えられたんですね。

（委員）
はい、３年前から挨拶運動を。それも１回だけではなく、２～３回やっています。今年は参加しただけでしたが。

（会長）
常日頃から保護者さんにやっていただいて、挨拶はもちろん地域の方にも見守っていただいたりして、結局、子どもたちが通学しているかどうかを、地域の方は、９年間見ていただいてるのかなという気がします。小・中の保護者の方はどちらかというと、アプリで学校を見てる面が強い。そう思うと、学校の先生方と保護者の方は、中３、小６のためにというのは、よく出ているのかもしれないと思います。地域の方からは、９年は、そうですね、今、あの子ちゃんと出てるかなとか、うち地域の子と違うかなとか。
改めて、十何年推進協議会の委員をやっていると、小中一貫という意味も、全然１つに定義する必要はなく、時代とともに変わっていっていいと思うんです。
考えていくべきテーマかなと思います。
はい、では他に。

（委員）
よろしいですか。先ほど北宇治中ブロックからの報告であった小中一貫教育ニュースですけれど、私は昨年まで北宇治中ブロックに、4年間おりました。確かには、令和２年から４年までは取組が停滞してしまっていたんです。そんな中で、そもそもニュースを作ったのは、例えば、教職員が各部会に参加していますが、自分の所属している部会では交流や協議の内容はわかるんですが、他の部会がどういう協議がされて、どういう内容で行われているかには全く触れることができませんでした。各係会議の後に全体会を持てればよかったんですが、その時間を保障することができないということで、全教職員が、自分の係だけじゃなくて、他の係で、どういう内容が話し合われたのかを共有するためのニュース、各係の長が話し合った内容についてまとめて、教職員が共通理解する、そういう意味の小中一貫ニュースを出していました。

（会長）
地域、保護者向けてのニュースではなく、組織内のニュースという話なんですね。それはもう、ある程度、ねらいが達成されたっていう感じですか。

（委員）
そうですね。市民向けではないので。

（会長）
分かりました。ありがとうございました。
続いて、東宇治中ブロックお願いいたします。

（報告者）
【東宇治中学校ブロックの取組状況報告】

（会長）
ありがとうございます。
いかがでしょうか。
先ほどから話題出ている、教職員広報ですが、ちょっとどうですか。

（報告者）
　同じような形でいいんだと思います。私はこのブロックのラーニングコーディネーター1年目なので、残念ながらちょっとわからないのですけれど、コロナ禍がはじまってからは東宇治中ブロックもないようです。
　先ほど、報告があったように、研修後の各部会での報告の内容ですが、今年度は、保護者への一貫だよりは出せたのですが、職員向けの、「もうちょっとこんなふうにしていきましょう」とか「今年度の成果、課題」とか、もう少し細かい職員向けのやつを出していたんだと思いますが、今年度それができなかったということです。しかし、正直に言うと、そこまで、職員向けが必要かどうかという議論を、今年はなかなかできなかった部分もあるので、来年度については、もうちょっと考えたい。

（会長）
　乱暴な言い方が続きますが、別になくても困らなければ別になくていいですし、あと昔は紙媒体でしかなかったですが、いろんな方法で電子化され、一般的に活用されています。私は学生のクラスロッカーなんかにデータを放り込んでおけば勝手に、むしろ読むみたいなこともあります。
　教職員のＩＣＴ活用という、もうちょっと仕事に生かしていかないと、子どもの教育だけではないはずなので、そういう意味での「働き方改革」と言うのかはわからないですが、先生が学びの確認というか、充実サポートにエネルギーを注げるとよいのではないですか。
　これを体裁にこだわったら、今風に考えても無駄じゃないですか。もったいないことじゃないですか。フォーマットも含めて、また検討いただければありがたいなと思います。
　よろしいでしょうか。はいどうぞ。

（委員）
　はい。ちょっと先ほど同じところなんですけども、計画ができなかったところで、一番最後の、地域との交流ができてなかったと、おっしゃったと思うんすけど、南部小、東宇治ブロックで、何かやってると思うんですが、そういうのとは違うんですか。

（報告者）
　そうですね。
　各校の地域の取り組みはしてると思うんですけども、もうちょっと広いところで、中学校ブロックで、例えばここの小学校でとか、小学校中学校の連携とかが、もう少し地域の中としてできればいいかなというふうに考えています。

（会長）
　もうちょっとできたのに、という感じですか。

（報告者）
　まあ、今後かなあという感じです。

（委員）
　以前は東宇治中ブロックで、黄檗祭りをされたと思います。
　今ちょっと中学校自体では、されてないと聞いてはいるんですが、皆さんが、そこへ集まって、以前は、岡屋小とか南部小とかがね、皆一堂に集まって、祭りをされてたんですけども。そういう感じですかね。

（報告者）
　そのようなイメージです。
　なかなか１回消えてしまったものは難しいかなとは思いますけれども。

（会長）
　それでは、次は黄檗中ブロックお願いします。

（報告者）
【東宇治中学校ブロックの取組状況報告】

（会長）
　はい。ありがとうございます。いかがでしょうか。はい。どうぞ。

（委員）
　すいません。ちょっと不勉強で申し訳ないのですが、課題解決型学習って具体的にどういう学習なんでしょうか。

（報告者）
　学習の過程で、今までは先生による教え込みっていうのがあったと思います。そうではなくて、学習するにあたり、まず子ども自身が課題を出して、その課題を解決するために自分で主体的に取り組んでいくというような学習になります。

（委員）
　子どものグループワークみたいな感じで、先生がヒントを出しながら、自分たちでやってくとかそういうことでしょうか。

（報告者）
　そうです。例えば、自然環境を守るためにどうしますかと言われたときに、いや、こういう方法が、こんなことも考えられるのではないかとかいうのを、子どもたち同士で話し合いながら進めていくこともあったりします。

（委員）
　はい。わかりました。すいません。初めて聞いた言葉でしたので。

（委員）
　いや、私もちょっとそれを聞こうと思っていたんです。教えて欲しいのですが今、高校とか中学校では、だいぶ進められている課題解決学習なんですが、具体的にどう言えばいいですかね。例えば、この間、高校生がその学習で(笠取に)来たんですが、例えば笠取のような市内から離れたところで、やりがいあるのかとか、そういうことを考えられてるいるんですが、それは結局、９年生も、小学校１年生っていうとね、大分違うとは思うのですが、中身はそういうふうに高学年になってくると、具体的な何かこんものだというのを教えていただけたらありがたいかなと。はい。

（報告者）
　課題解決型学習した本校の６年生でしたら、「萬福寺学」と言って、地域にある萬福寺に見学に行き、そこで萬福寺の課題点を見つけて、子どもたち自身が、「平等院やったらお客さんがたくさんいるのに萬福寺ではちょっと少なかった」とか、「萬福寺にもっとたくさんの人に来てもらうためにどんなことできるか」ということを課題に設定して、それを解決するために、「萬福寺のツアーしよう」とか、「どっかでラジオ放送しよう」とか、色々な提案を出しあって、できること、できないことを整理しながら学習を進めていきました。

（委員）
　はい。わかりました。ありがとうございました。他は、はい、どうぞ。

（委員）
　生徒指導にね、一貫性を持たせることができなかったということですが、制服ですか、他は。

（報告者）
　今年は、服装のことが大きく出て、小学生でしたら、髪を染めたい、染めた子もいたり、ピアスを開けるようなご家庭もあったりして、でも、小学校は小学生らしい身なりをしていて、それをどこまで、保護者に伝えるかが難しいところです。ただ中学校に進学したら、校則で「それは禁止」となりますので、そこをどう接続していくかというのがすごく難しく、課題として挙がっています。

（会長）
　まず、問題解決型学習。ＰＢＬといい、プロブレムベースドラーニングと言って歴史的にはいろいろ、何回も、トライアル、試みがあるのですけど、お茶の生産は、全国の何番目とか、どんな歴史があるのとかいうふうな、総括的な視点から伝えるのではなくて、宇治茶を世界にアピールするためにはどんな方法があるか、どんなことをしてもらったらより理解が進むか、何か具体的な問いに答えるために何を調べないといけないのかという着眼点で学びを進める学習であると思います。
　もう１つ今、この一貫性とか、それから継続的なとか、これはもう質問じゃなくてコメントですが、先ほど連続性という言葉も出ています。だから似たような言葉が結構あり、連続なのか一貫なのか継続なんのかとかいう、言葉遊びにはまってはいけないのです、曖昧なところがあるということです。その一貫性を持たせることができなかったというのは、持たせるべきなのに持たせなければならないという話なのか、ちょっと荒っぽいですが、持たせなくてもいいと考えたときに、何が大事なのかということも出てくると思うので、できなかったからダメだとか、課題だとかではなくて、この部分は持たせるべきだけれど、ここは違うのではないかという区分けというか、もう少し見てもらうといいのではないでしょうか。
　後者の方ならば、別に課題にならない。そんなものではないかということなので、そこは学校側としては、実際一番最前線の子どもに接していらっしゃるのだから、「こここうだよ」「子どもはこうだよ」というところを、アピール、学校の理屈で言っていただいてもいいとは思います。その中で、一貫とか連続とか継続とはどういう意味なのかということをまた議論できればなと思います。ありがとうございます。
　ではですね、４ブロックからお話ちょうだいしました。あと６ブロックあるのですが、１８ページをご覧いただいてもいいですか。その次の活動報告とも、重なりますが、まず今ご報告いただいた黄檗中には視察に行っていただいたので、こんな感じだと、教えてもらえますか。

（委員）
　はい。私の方で黄檗中の視察に行かせてもらって、赤ちゃん交流という、ＮＰＯの子育てを楽しむ会の方が、お母さん方と乳幼児を連れてこられて、中学校３年生と交流をするという形でした。
　その赤ちゃん交流について勉強させてもらいましたが、併せて小中一貫校敷地一体型についても勉強させてもらいました。そこで教頭先生にお話を伺った中で、小中一貫校の目指すべき姿とは、小中で同じことをやるのは発達段階等、いろいろあるので難しいので、９年後終わったときにどんな子どもたちに育って欲しいのかをイメージをすることが、大事だと言っておられました。この言葉が一番印象に残っています。

（会長）
　なるほど。

（委員）
　これが一貫性の話にも繋がってくる。年間にして、全部小一から中三まで同じことはできないので、でも子どもにさせようと思うと余計に活動が難しくなる。教育課程を進めるのが難しくなるので、１０年後どうなって欲しいのかということを、小１から中３の先生方、全員がイメージして話し合ってことが大事かなということを、教えていただきました。

（会長）
　なるほど。ありがとうございます。９年後を、１０年間を見据えた、見据えてっていうところは、統一的にとか、みんなが共通として、それぞれの学年なり領域で取り組んでいくという考え方もあるのではないかみたいなことですね。

（委員）
　今何をすべきか。イメージして小１は何をすべきか、中３は何をすべきか、ということをみんなで話あっていくことを配慮できればいいのではと思います。

（会長）
　なるほど。はい。ありがとうございます。それでは、続いて、今報告のありましたブロック以外のブロックへ視察に行っていただいた委員にお聞きしたいと思いますが、いかがでしたでしょうか。
　宇治中学校の視察はいかがでしたでしょうか。

（委員）
　宇治中学校の敷地に初めて入ったのですが、その体験入学で、私が素晴らしいなと思ったのは、最初に体育館に６年生みんな集まってですね、校長先生が最初にご挨拶、そして生徒会から説明がありました。あと学校紹介とかクイズとかも、基本的に、生徒会の３年生が抜けた、新しい１、２年生の方たちが中心となって、その子たちだけで進められていたことが非常に良かったです。
　その中でも、自分とこの小学校、去年まで６年生だとかが、生徒会をやってくれているか、そんな姿を見るとやっぱり楽しいと、すごく感じました。あとは授業体験と部活動見学ですが、これも、やっぱり小学生が中学校に来年入ると思ったときに、中学校の授業ってどんなんやろうとか思うので、先生方も、すごく面白い、エース級の先生とかだったのか、なんか笑いを交えながら、子供たちの不安をちょっと解消しつつ、教えられていたっていうのがすごくよかったなと思いました。部活動見学はちょっと見られていないので、以上です。

（会長）
　はい。ありがとうございました。それでは、続いて木幡中学校の視察についてお願いします。

（委員）
　木幡中ブロックの木幡中の新入生の体験入学を見させていただきました。宇治中さんと同じで、生徒が主体となって、色々企画して、その後も全部、生徒がメインで全てやっていくという形で、入学してくる小学生の児童たちには、やっぱり身近なお兄ちゃん、お姉ちゃんが、全部、案内してやってくれるっていうのが一番いいんだなと思いました。ただ、木幡中学校さんへ入学生、めちゃくちゃ多く、ものすごい数の小学生が体育館に入ってくるんですけれども、それを捌いていけていたのが、もうすごいなと思いました。ただ、やっぱり人数多い分、色々なところを見ていこうとすると、１ヶ所がすごい時間が短くなってしまい、それも大変だなと感じました。先ほどタブレットとか言う話をされていたので、もしそれで足りないところとか、もっともっとこうしたいなっていうところがあれば、そういったタブレットとかを使ってさらに深めていけるのかなと思いました。タブレットを使って、ライブでできるのかどうかよくわからないですけど、そんなことができたりしたら、例えば、体験入学の日にやったこと以外の文化祭であったり、合唱コンクールであったりとか、6年生がライブで見ることができるのかな、と、ちょっと思いました。いずれにしろ、すごく素敵な体験入学でした。
（会長）
　ありがとうございます。他のブロックでは確か、ライブではなかったけど、ビデオを撮っていたところもあったかと思います。
　はい。同じく木幡中ブロックだけど、御蔵山小学校の視察についてお願いします。

（委員）
　私は御蔵山小学校で行われた三校交流に参加させてもらいました。三校交流というのは、笠取小学校と笠取第二小学校の児童が御蔵山小学校へ行って、各学年各クラスに分かれて入って、そこで１日まぁ半日ですけども、一緒に勉強して過ごすという機会です。私も３０年ほど前に木幡小学校に居たり、御蔵山小学校に居たりで、17 年間ずっとこれに関わっていました。それが大分期間も空いたので、どの程度変わってるのかなあというのも興味があって、行かしてもらったのですが、この取組のよさは、小学校１年生に入学したての、笠取小学校、笠取第二小学校の児童が、６年間、木幡小学校と御蔵山小学校に、年に何回か通えば、そこで友達関係をきっちりつくり上げて、そして大きな木幡中学校へ入学していく、ものすごく意味のある取組で、ずっと継続して行われていています。小小連携がすばらしく、とても大事な取組だと思ってます。ただいつも感じるのは、今回もそうだったんですけども、木幡中学校の先生が、この取組をどこまでご存じで、どこまで、まぁ言ったら見に来られたことがあるのかな、ということ。たくさんの中学校の先生方がこの取組を見てくださるといいなと、いつも感じています。何よりもやっぱり子供たちが、昔と比べるとね。泣く子が少ない。ほとんど笠取、笠取第二の子たちは、低学年の子は泣いてましたね。昔は、大きな集団が怖くて、慣れないので、泣いて結局教室に入れずに、笠取小学校、笠取第二小学校先生とずっと一緒にくっついてるということは昔よくあったんですが、今はもう１年生でも、しっかり平気で、すぐに入っていけるようになりました。たくましくなったなと感じました。とても貴重な、昔から大事にされた取組で、意義があるんだなと感じています。

（会長）
　はい、ありがとうございます。今の小小連携、小小交流のことは、木幡中には、事務局からも言っていただいていたのでしょうか。

（事務局）
　はい、木幡中にはラーニングコーディネーターの方に声をかけさせていただいて今回は行っていただいております。

（会長）
　わかりました。ありがとうございます。
　では、最後、広野中ブロックの取組、大久保小学校の視察について、ご感想教えてください。
　お願いします。

（委員）
　感想ですけども、中学生が小学生に読み聞かせ、紙芝居を読み聞かせるということで、最初はちょっと、中学生も小学生も緊張してるかと思ったんですけども。やっぱり慣れてくると、最後の方は、もうこのお兄ちゃん好きみたいな感じて、やっぱりすばらしい試みやなと思いました。
　そのあと、校長室でお話ししました。またそれがいろんな意見があって、有意義で良かったかなと思っています。

（会長）
　はい、ありがとうございます。ありがとうございます。
　はい。では、次の方お願いします。

（委員）
　今、別の委員がおっしゃったのですが、私最初に、読み聞かせが、どんな効果があるのかなっていうことをちょっと思いました。ただ中学校のお兄ちゃんが来て子どもたちにお話するんだなと。そしたら、中身をよく見てみますと、今、小学校１年生の子に読み聞かせをしている中学１年生は、自分

が小学校１年生の時に、お兄ちゃんお姉ちゃんから読み聞かせをしてもらった、という流れを作っておられる。だから、２小１中の広野学園の取組なのですが、よく長く続けているからこそなんですけれども、やはり自分らが今までしてもらったことを、中学校のお兄ちゃん、お姉ちゃんになって、一生懸命、ゲームなどを考えてやっていました。そしたら、小１の子どもたちも喜んで、いずれはと思ってはいるとは思うのですが、立派な先輩の姿を見ていたかなと思います。

それと、もう１つよかったのは、中学生が、最後の１つが終わって余った時間に、このお話はどうでしたか。誰が出てきましたかみたいな、やさしいクイズなんですが、それに答える小学生の１年生の子が何々ですってこう答えるわけですよ。「あたり」とかなんか言うんですけど。１人の中学生が、その褒め方が、ものすごく上手なんです。聞いていて、「うまいこと褒めているな」、そのわざとらしくじゃなく、ワーッていうかね。それを見て、この取組はどんどん進化しているなと、改めて思いました。

（会長）

はい。はい。ありがとうございます。では、次の方お願いします。

（委員）

はい。お二人の委員が言われる通りなんですけども、私も中学校の教員としてどうやってやってるのかいうのは非常に興味があり、最初のイメージだと、代表の子が小学校行ってるから、残された中学生は学校で自習しているのかとか、なんかそんなこと思ってたんですけども、結局は、全員がそこへ行っているんですね。そうなのか、全員が行って、ローテーションしながら、それぞれが担当のものもあれば、クイズを出す子もおれば、それぞれ事前にきちんと役割分担してきている。紙芝居も、紙芝居って、どうしたんだろうって、みんな手づくりのやつを毎回持って来るのかなと思ってたらそうでもなくて、もう大体１０年ぐらいでそろえられていて、この紙芝居を全員が練習をしてきてやる。こんなふうになってるのか。これやったら、今後、西宇治中ブロックでもできないことはないなあと思いました。

ただ、なかなか先立つものも必要だし、最初にあれだけの紙芝居を準備するのに、非常に先行投資が必要だと思いました。また、先ほど非認知能力とおっしゃっていましたけれども、中学生の非認知能力の育成に、また、先ほどご質問でおっしゃっていた、小学校１年生のときに体験し、それを中学校１年生になったときに、今度は自分たちか、下の子たちに、と非常にいい取り組みだというので、ずっと続けておられる。非常になんか、いいものを見させてもらったと思いました。

（会長）

はい、ありがとうございます。今、財産というか、大久保小で小学校１年生のときの、彼らの写真を撮影しておいて、その様子を６年後に、小学生への読み聞かせの練習の中で、「６年前君たち小学校１年生でこんなんやったんやで」という写真を見せて、それで今度は６年後に入学してくる１年生に活かしてねっていう感じでやることは、子どもにとってはすごい長い時間の、たった６年間とするかもしれないけど、幼い子どもたちにとっては６年間ってすごい長い時間なので、そういう写真を残しておいてくれはって、頑張ろうって。あれはとても心温まりましたね、６年後に生きる写真って、すばらしいな、家族でもないのに、すごいなと思って、聞かせていただきました。

はい。時間たくさんちょうだいしましてありがとうございます。それでは、こんな形で５年度の視察はお邪魔したということで。

（２）報告２　令和５年度宇治市小中一貫教育推進協議会の活動について
資料１の１８頁資料確認

（会長）

では次に、報告２　令和５年度宇治市小中一貫教育推進協議会の活動について活動、本協議会の報告、他府県からの視察等については、資料を見ていただいて報告という形でよろしいですかね。

（３）報告３　令和６年度に向けて
①令和６年度小中一貫教育到達目標（案）について
資料１の１９・２０頁に沿って事務局より説明
報告３①についての質問・意見等と応答

（会長）
はい。では、レジュメの３番目ということで参ります。令和６年度に向けてということで事務局お願いします。

（事務局）
それでは、令和６年度に向けて、お手元の資料１　１９ページ・２０ページの「令和６年度小中一貫教育達成目標（案）に基づき、ご説明申し上げます。

【事務局より　令和６年度小中一貫教育達成目標（案）について説明】

（会長）ありがとうございました。
ただいま、事務局よりに「令和６年度小中一貫教育達成目標（案）」ついての説明がありました。
４つある中で、特に学力っていうところに焦点をというお話かと伺いましたけれども、このあたりは、学校、最前線というか、いかがですか。実現可能な目標でなければ、困るので。

（委員）
そうですね。学力っていうのが、本校でも学力って何なのかっていうことを今見直しているところで、学力向上、学んだ力、今、子どもたちがつけなければならない力って、もちろん学力テストの結果など、そういった学力を伸ばしてくのが一番ですけど。本校、今このブロックで進めているのが、学んでいく力、学ぼうとする主体的に自分たちが学んでいこうっていう力、学ぶ意欲というか、そういう力を伸ばすことが、結果的にこの学力テストとかそういった力に繋がっていく。家庭学習についても、本ブロックで見直したのが、小学校から中学校３年生にかけて、宿題をやれやれではなくて、今、中学校で宿題たくさん出して、やれやれとやっていくと、結構つぶれてしまう子がいます。これが結構多くて、真面目な子が、課題ができなかった、学力テストも全然点数がとれなかった、で学校に来れなくなったりする。そういったことで、学力を伸ばせていない現状があります。であれば、今、色々な学力の子がいて、それぞれの課題が違って、その中で、本ブロックでも紹介させてもらった、個別最適な学習ということで、その子に合った学習を提供していくことが、多分、学力の向上に繋がっていくのかなっていうところを感じています。そのために、どうしていくかっていう方策を、学校現場で考えていかないといけないと考えています。ですので、一律に課題をたくさん出してっていうのは、今、見直してるところです。その子に合った課題をやらせていく、その子に合った課題をやっていくことによって、その子に合った学力がついていくという考えです。そこまで考えた上での学力というところまで、学校現場で考えていく必要あるかなと思っています。

（会長）
なるほど。はい。ありがとうございます。他に学校現場からいかがですか。

（委員）
重点に挙げられている学力に関してはずっと課題ですので、引き続き継続してやっていく必要があるだろうなと思います。ここに書いてある具体的な取り組みについても、ほぼ、今までからやっていっている部分もあるんだけれども、各ブロック、各学校の実態に応じて、どこに重点を置いていくのかというのは、検討していただければ、いいかなと思います。あわせて、重点と併せてですけども（２）の、生徒指導についても、学力と、学力を上げるためには、やっぱり生徒指導というか、学習規律だとか、重要部分を占めているので、両輪だと思います。その辺は各中学校ブロックの児童生徒の実態に応じて、どこに重点を置くかは検討していく必要があるだろうなと思います。

（会長）
　はい。ありがとうございます。
　いいですか。ちょっと保護者の立場から、求める学力というかどうですか。

（委員）
　すいません。先生方が言われた通り、マナーっていうもちろん学力を伸ばしていくっていうのは思ってはいるんですけれど、何か府の平均点とか別に、もう個人的な意見なんですけれども、個々の子どもたちが、もちろん生きていくのに必要な学力っていうのは持っておかないと、その子たちが将来しんどくなる。あればもちろんベストなんですけれども、やっぱり、個々の能力、持っているものの差はあると思っているので、その子たちが、どれだけ伸びたかというのを個別に見てあげる方が、いいのかなって思っています。自分の子どもがこれだけ伸びたっていうのを、一喜一憂する保護者ばかりでもないとは思いますし、最終的に自分の子どもが自立できるような力の基礎を育んでいただけたら、それが一番ありがたいのかな。もちろん学力、大事だとは思ってはいるんですが、その根っこにあるのは最終的にその子どもがどうやって生きていくかに繋がると思います。別に大学行かなくても、その位置で生きていける力を持ちたいって思えるような子どもを育てていただけたら、もちろん保護者がちゃんと家庭教育しないと駄目ですし、保護者、協力していかないと駄目な時代だとは思うんですけれども、そういった力を保護者と学校と一緒に、子どもたちを育てていけたらいいのかなと、もちろん、学力がつくに越したことはないのですが。

（会長）
　はい。ありがとう。他に保護者の立場からどうですか。

（委員）
　おっしゃっていただいたその各個人、伸ばせるところ伸ばして、そこに対して学校が手助けして、包括してやっていただけると非常にありがたいなと思うんですが、先生、大変です。親としてはやっぱり学力向上ってのいうのは本当にひとつの望みではあるんですけども。なかなか本当に、自分も受験生だったときはあるんですけど、自発的にやるようになるって、だんだんこう解けて行くと、何かこう入っていくというか、勉強楽しい。そこに入るきっかけは、子どもによってやっぱり多分全然、違うと思います。私は何か解いているうちになんか、すごい、数学も解けると嬉しくて、数字的に点数も上がって、楽しかった記憶があります。それが、みんなに当てはまるとは全然思えないので、難しいなと。ですから、勉強の仕方とかそういうところはもうやっぱり先生がプロなので、僕らがどうこう言うところではないと思います。ただ自宅で何か、勉強する癖をつけて欲しいなと思います。今、うちの子どもは小学生で、体験的なところを話しながら、でも、子どもには、やっぱり難しい。すいません。とりとめもない話で。ただ、自分の経験で、子どもにいきなり答えの解き方だけを教えないように、ちょっと気をつけています。それで子どもたちが勉強を好きになると、私は思っています。

（会長）
　はい。ありがとうございます。そうですね。本当に難しい時代というか、ちょうど土曜日にシンポジウムをやらせてもらって、いろんな取り組みのご報告をちょうだいして、勉強してきたところなんですけれど、テーマは学びの多様性ということでした。従来、教育というのはやっぱり、言い方は荒っぽいけれど、有無を言わせず、こういうことできなあかんよとか、頑張ろうねってことで引っ張ってきたという歴史が長くあって、それに対して、もう不登校がもう３０万人に達するというね、もう、無視できない規模になって、しかも、２０１７年から教育機会確保法という法律が施行されて、乱暴に言うと、学校に来なくてもいいよっていうふうに、認めざるをえないような状況に陥る中で、その子に合った学びとは何なのかっていうことを、これまでも、それこそ問題解決学習とか、経験主義とか言ったりするんですけど。実際生活に根差した学習をしていこうとか、いろんな試みは歴史的には大正のころからあって、繰り返してきたんですが、それとは違う次元だと、私は思っていて、その学びというのが一番、教えるではなくて学ぶっていうのはもう、主客関係の逆転なんです。今まではい

かに教えるか、そのためにどんな教材を作りどんなペースでどんな活動がいいかっていう議論をしていたと思うんだけれど、学ぶとなるとですね、教える人が直接、出番がないというかその人の問題なので究極的には、どう学ぶために何が支援できるかっていう、そんなふうにも個人的にはとらえたりしてるものですから、この学びの多様性というものにいかにこれからの学校が応えうるのかっていうのは、非常にチャレンジングなテーマで、きっと本格的にやったことはないと思います。その中で、じゃあもう目標出さなくていいですか、というわけにはいかないところもあるので、委員会としても苦しいところだと思うんですが、一貫性、一貫教育、それから継続性、連続性って言葉の問題も含めて、包括的にというか、緩やかなものとして、子どもを見る、或いは子どもに接していただく先生方に、期待申し上げるっていう、スタンスが大事なのかな。だから測定項目を細かく、いっぱい作って、これできてますかって、こうチェックリストとかね。何％ですかってアンケートをするということはしないで、アドバイスですね。そういうふうなことも含めて、ある程度は、やっぱり学校に、もちろん保護者や地域の方の協力が前提ですけど、お任せして、どうしていったらいいのかということを、熟議っていうのかな、議論するってことはやっぱりすごく大事で、それで気が付いたりとか、自分が知らなかったことを学ぶっていうスタンスで仕事をしたり、或いは日々を向き合うっていくことが大事なのかなって。私も意見をしているわけではないんですけども、非常に難しい時代というか、チャレンジを要求する、要求される時期に来ていると思うので。だから、これまで通りやっていかなければならないことも不易と流行であるとは思うけど、一方で、新しいことでも挑戦していくことも、そうなると性善説に立たざるをえないわけです。いいことをやってくれるだろうということを期待申し上げて、わからへんなりにやっていきましょうという感じで、委員会の方も見ていただければありがたいかなという次第です。

（４）報告３　令和６年度に向けて②
　②宇治市小中一貫教育推進協議会の活動（案）について
　資料１の２１頁に沿って事務局より説明
　報告３②についての質問・意見等と応答

（会長）
　はい。それでは最後の最後になりますかね。本協議会の活動についてということで、説明いただけますか。

（事務局）
　それでは、お手元の資料１　２１ページの「宇治市小中一貫教育推進協議会の活動（案）」に基づき、ご説明申し上げます。

【事務局より　宇治市小中一貫教育推進協議会の活動（案）について説明】

（会長）
　ありがとうございます。来年度は３回を予定しているということと、視察・学校に伺うことをまたやっていきましょうということですね。で、（２）のところなんですけど、もうずっとできるだけ、複数のブロックの学校に行きましょうって言って、お金は１回分しか出せませんがと言いながら、それはともかく。僕もなかなか１回しか行けなくって申し訳なかったんですけど、こんな感じで進めてもらったらもうちょっと行きやすいかなあとか。ある時なんかは、気軽な学校訪問みたいな、あんまりしゃちほこ張らない。何か事務局が来て、何か調整してもらって、そんなん行けませんみたいな時代もあったりしたんですけど、学校としてはやっぱり来られるかもしれないっていうのはやっぱり気を遣うことはあまり変わらなかった気もしますが、どうですかね、この場で、これまで視察に行っていただいたご経験から、こんな感じで知らせて欲しいとか、こんな感じの取り組みやったら嬉しいとか、どうですか。昨年、今年度みたいな感じで進めてもらったらいいんですか。

（委員）
　視察には、私も何回か行かせてもらっています。これに行くとね、ものすごい歓迎を受けて、本来ですと、それを、会長が今言っていただいたように、もうちょっと気軽に行けて、様子を見に行けるような感じがいいかなと思うのと、それから、これは私個人なんですけど、ちょうど 11 月ごろが、お祭りを企画したりしているものですから、やはりもっと早い段階から、春でもいいし、そういうときには、前は、紹介があったほっとミーティングか何か、そういう先生方の会議、会議って言っても何かこう聞いていても難しいんですけどね。年間を通して、ちょっとばらけるようなスケジュールがあるといいです。

（会長）
　そうですね。大体、秋ですもんね。

（委員）
　はい。最初に行ったら忘れてしまって。

（委員）
　私初めてやったのではい。勉強になりました。

（会長）
　ありがとうございます。迎える側にもなり、伺う側にもなった学校側としてはどうですか。こんな感じで来てもらったらとか、あれ、ご自身も行ってみたらとか。

（委員）
　はい。やっぱり、受け入れる側としては、どうしても構える部分がですね。そうですね。なかなかしょっちゅうお会いして、気心の知れてる方やと大丈夫な部分も。何か、教育委員会の方とか、何か視察やとかって言われると、ちょっと構えてしまいますね。なんか見てもらうのにも、ただこう会議してるところを見てもらっても多分面白くないかなとか。なんか子どもがやってるところを見てもらいたい、とか。

（会長）
　そういったことは、学校としては早くスケジュールっていうのなかなか難しいですね。

（委員）
　一応予定は、その日やっていうのはもう決まってはいます。

（会長）
　学校・ブロックからあげてもらっても、委員会としても集約したり調整する時間がかかるって感じなのですかね。

（事務局）
　そうです。1 回目の推進協議会の後に、調整をさせていただきますので、どうしても夏休み入って 2 学期以降というふうになってしまうところがあります。

（会長）
　1 回目は例年 7 月だとして、もう学校に伺うってことは決まっているわけだから 5 月、6 月かは、わからないけども照会をかけてもらって、7 月ぐらいに出てもあまり変わらないのかもしれないけれど可能であれば、保護者とか地域からも来ていただくことが多いと思うのですが。

（委員）
そうですね。本当にいろんなタイミングでいろんな機会があればあるほど、選びやすく、行きやすいかなっていう。

（会長）
　ちょっとだけかもしれんけど、身構えるっちゅうのもあるのでこれ視察って言わんと訪問とか、そんな、偉そぶるわけでもないしね。うん。はい。ご検討ください。はい。じゃあよろしいですかね。来年またお会いできるかと思います。よろしくお願いします。

（５）報告　令和５年度　小中一貫教育についてのアンケートについて

（会長）
　それでは、最後の最後のアンケートということで、お願いします。

（事務局）
　それでは、事務局より「令和５年度小中一貫教育についてのアンケートについて」ご報告いたします。
【事務局より　令和５年度小中一貫教育についてのアンケート実施概要等について報告】

（会長）
　それでは、これで第２回協議会を終了させていただきます。進行を事務局にお返しします。

（事務局）
＊事務連絡事項の説明＊
　本日の議論につきましては、冒頭にお話した通り、要約という形【会議録】で作成します。
　また、内容を整理した上で各委員の方に確認していただきますのでよろしくお願いします。）
　会議が終了しましたので、事務局より福井教育部長がご挨拶を申し上げます。

３　閉会
　福井部長より閉会の挨拶
（事務局）
　本日は誠にありがとうございました。お気をつけてお帰りください。